

学校名 始良市立蒲生小学校

項 目	活動内容等
1 活動内容等	<p>本校に隣接している日本一の大楠のある蒲生八幡神社を約 80 年、ボランティア活動として清掃してきた。児童は、この活動を続けることでボランティア精神を養い、地域へ貢献することの大切さを学ぶことができている。</p> <p>このように、学校と地域とを結ぶ活動が長年に渡り行われている。</p>
2 活動状況等 (1) 活動の動機・頻度	<p>ボランティア活動の動機としては、ボランティア精神の高揚と地域貢献である。</p>
① 活動を始めた動機及び開始年月	
② 活動の愛称名があれば記入して下さい	朝のボランティア活動
③ 月間又は年間活動回数	<p>毎週月・水・金曜日に、5年生が蒲生八幡神社境内、参道の清掃を、6年生が学校正門付近や上校庭の清掃を担当している。</p>

項 目	活動内容等
④ 活動のエリア	蒲生八幡神社境内，参道及び正門付近，上校庭
⑤ 活動1回当たりの平均参加者数	20人程度
⑥ 活動1回当たりの平均時間	15分程度
⑦ 収集物の処理	収集したごみの種類ごとに分別し，定期回収時に回収してもらう。また，落ち葉や草等は，校内の所定の場所にまとめて回収している。
(2) 活動の独創性 活動の特徴	<p>児童は，長年に渡り日本一の大楠のある蒲生八幡神社周辺の美化活動を行うことで，蒲生町の一員として地域を守り，地域に誇りをもちながら生活することができており，地域とともにある活動となっている。</p> <p>また，令和4年度始良市ボランティア育成協力校（始良市社会福祉協議会）の指定ボランティア協力校として，長年に渡り取り組んでいるボランティア活動を児童会がまとめ，協議会に報告した。活動報告は，始良市の商業施設や広報誌(福祉あいら)で広報している。</p>
(3) 地域への貢献度 ① 地域の環境美化への貢献	<p>本校に隣接している日本一の大楠と蒲生八幡神社は，蒲生町の人々にとってシンボリックな存在となっており，愛着のある極めて貴重な場所である。また，児童がこの場所を長年，ボランティア活動として清掃することにより地域の環境を整えることは，地域環境美化への貢献度が高いと考える。</p> <p>さらに，地域環境美化活動を児童会がまとめ，始良市の商業施設や広報誌(福祉あいら)で広報し，地域の方々に活動を広く知ってもらうようにしている。</p>
② 地域住民との協力活動	長年行われている活動であり，伝統的な活動であると言っても過言ではない。そのため，地域の方々からは，温かく見守られている。また，本校出身の保護者からは，激励の言葉をいただくこともある。

項 目	活動内容等
③ 児童・生徒の活動に対する地域住民の反応	夏の蒲生太鼓おどりや秋の日本一大楠どんと秋まつりは、地域を代表するお祭りである。これらの会場の一つである場所を長年に渡り清掃活動を行うことで、地域の方々から高い評価をいただいている。
(4) 環境教育との関連	本校の環境教育の目標は、「地域の自然と自分とのかかわりについて考え、身近な環境づくりに働きかける児童の育成」であり、この目標の基、具現化を図るために、児童・保護者参加の愛校作業やリサイクル活動等と並んで位置付けられている。
① 環境教育と活動との結びつき	この活動を続けることで、地域の一員として、地域を守り、地域に誇りをもちながら生活をしていくことができる。また、日本一の大楠と蒲生八幡神社に対して愛着を一層感じるようになっていく。
② 活動開始後の児童・生徒の美化意識の変化	この活動を続けることで、地域の一員として、地域を守り、地域に誇りをもちながら生活をしていくことができる。また、日本一の大楠と蒲生八幡神社に対して愛着を一層感じるようになっていく。
③ 当該活動以外の環境教育実践活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米づくり体験学習（5月：田植え、10月：稲刈り） ○ 親子愛校作業（8月） ○ 里山体験（11月） ○ EM菌による水質浄化（1月） ○ 委員会活動による節水・節電の呼びかけ（通年） ○ リサイクル活動（通年） ○ 学級園活動（通年）
(5) 当該活動で他の表彰を受けたことがありますか	なし
(6) 校内外活動のための時間の作り方	朝のボランティア活動の時間を活用
3 その他特記事項	なし

《資料 1》

蒲生八幡神社清掃

【朝のボランティア活動の様子】



【児童会によるボランティア活動のまとめ】



令和4年度
ボランティア
協力校
活動報告展示

地域住民との交流や美化清掃活動、共同募金運動などのボランティア活動を通じて、児童・生徒の福祉への関心を高めることを目的に、ボランティア協力校を毎年5校指定しています。令和4年度ボランティア協力校の1年間の活動内容をポスターにまとめられたので、各学校の取り組みをぜひご覧ください。

～令和4年度ボランティア協力校～

三船小学校・蒲生小学校・湊小学校・西浦小学校・蒲生中学校

展示期間 8月1日 ▶ 8月31日

展示場所 イオンタウン始良
西街区3階フードコート近く連絡通路



▲こちらの連絡通路にて展示します



令和4年度始良市ボランティア育成協力校（始良市社会福祉協議会）の指定ボランティア協力校として、児童会が朝のボランティア活動を協議会に報告した。

活動報告は、始良市の商業施設や広報誌（福祉あいら）で広報している。

新しいなまふるびと発見隊

蒲生小学校（始良市）

蒲生の宝 みんなで守る

日本一の大楠

みなさんは日本一の大楠... 蒲生小学校のすぐ横にある蒲生大楠...

大楠のことについて日本... 蒲生大楠は寛文9年(1769)...



大木を接ぎ取る 蒲生の大楠。原田さんから保護活動などの話を聞き、永田啓一

る木です。根が太く、日本一太っている木として認定されているとまうです。

また、樹は年をとるほど中心が空っぽになる傾向があります。空っぽは高さ15メートル、直径8メートルの空に空っぽになっています。今回、特別に中に入ってもらいました。参加メンバー8人と原田さんが入ったまま、ただもうがありました。

中に入ると、大楠の「取っ手」といって、お椀にえきたような感じがしました。

毎日近くで見ている大楠は、近頃木に目をやると、これまでたくさん剪定をしてきたそうです。中でも一番危ないのは、出芽前に剪定するところの風です。ほとんどこの枝が折れ、幹だけが残り、枯れかけたそうです。佳枝が一玉けん命に水をまき、網をはりました。

平成に入り樹木法制度が始まり、大楠を守る活動は本格的になりました。



ウレタンで保護している

日本一の大楠



ステンレスの屋根

また、大楠を守る活動は本格的になりました。白アリはくさびを切り口にはウレタンをぬりました。空の中がくさびだらけのようにステンレスの屋根が付けられました。

そして、根が腐まないように石垣を築き、さくが取り外され、木のうらができました。父や母が子どものころには自由に遊んでいただこうとす

が、木の中に入れてくさびに壊れなくなったりしたのとは、このころからです。根が太く成長をきめるように土、人が手を入りました。

このように多くの人々に助けられ、大楠も元気を取りもどしてまいりました。ただ、かつては病気が発症しながら生きてきた大楠は、今も元気に生きています。この話をみんなに伝えて、今の大楠の歴史を知ってもらおう。大楠を守り続けるのは私たちに、と心の中で決意しました。

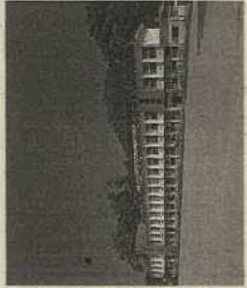
蒲生小学校では、大楠周辺でボランティア活動を行っています。長く受け継がれてきた大切な伝統です。今の世代に守ることを忘れずに、みんなが協力して日本一の大楠を守っていきたく思います。

★ ★ ★ ★ ★
まなびや
私たちの蒲生小学校は、始良市の北西部に位置し、創立145年をむかえる歴史ある学校です。自然豊かな環境の中で、ボランティア活動も非常に盛んであります。また、いろいろな方々とのつながりを大切にしたいと考えています。

【設置】1934(昭和9)年に作られて以来、何度か作りかえが繰り返されています。今の校舎は、1953年に建てたものです。葉は大楠の葉をまわし無限の力を示しています。万年筆の先は文字を表現しているそうです。

長く続く韓国との交流

一つ目は韓国交流です。1987(昭和62)年に韓国の高橋生がホナム大学に来て、その後「蒲生郷大韓坊主」として、和太鼓集団が韓国を訪問したことがきっかけで、今でも続いています。



夏休みには小中学生がホナム大学に行ったり、1月に訪ねられる「日本一大楠」と呼ばれる韓国の国立伝統芸術院等に、学校の生徒が演習に来たりしています。

一つ目は、姉妹校の蘭亭小学と交流です。戦争中に種子島の子どもたちが捕虜にされ、おたがいの修学旅行で訪問しあっています。私たちの父や母も訪問したり、交流したりしていたと語っていました。

三つ目は、地域の方々との交流です。5年生は米友和陶器の方々のお手伝いをもらって、おみまきから桐割り、脱脂粉を織織させてもらっています。2年生は、おかべ会の方々の案内で森林体験をしています。他にも読み聞かせや絵のカーニング作り、お仕事を体験などの学年ごとの地域との交流があります。

今はコロナウイルスのせいにより、できない行事もあります。コロナが収まったら、もう一つ、いろいろな機会を地域の方々との交流をしたいと思います。

わたりたがが取れしました
6年 岩元諒人、羽生優希、電澤幸羽、馬場千紗夢、有馬匠、原田流聖、佐々木花、長瀬舞桜、坂貫美穂
私たちは、学校の隣にある大楠について調べました。今回一番心に残ったのは、樹齢1500年の大楠は外から見るよりも、元々の大楠は、今までもたくさんの方々の苦勞をしてきた、かかたつた病気が残念ながら完治しないうつろいようです。大楠の病気を少しづつでも治していくために、私たちが大楠を大切に守って、必要があれば大楠を大切に守るために、私たちから大楠を守りたいです。これからも「日本一の大楠」を町のシンボルとして、たくさんの方に知ってほしいです。

この企画は、南日本新聞社の広告主でつくる南日本広友会の社会事業です。子どもたちが発見し、取材・撮影した「地域の宝」を紹介します。制作：南日本新聞社営業局

《資料3：蒲生小ブログ》

蒲生小ブログより

ボランティア活動



これまでの6年生がしてきたボランティアを今年度も引き継いでいます。

朝、神社の境内付近の清掃をがんばっています。掃除することで、気持ちのいいスタートが始まっています。

投稿時刻 09:36 [6年生](#) | [個別ページ](#)

2015年7月24日(火)

朝のボランティア活動

蒲生小の6年生は、毎朝ボランティア活動を行っています。

学校に隣接する蒲生八幡神社の境内や階段を清掃しています。

毎日がんばっている子どもたちには、日本一の大橋のご利益があるかもしれません。



投稿時刻 14:59 [5年生](#) | [個別ページ](#) | [トラフィックバック \(0\)](#)